

平成28年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学大学院工学系研究科

評価委員会

平成30年1月



## 目次

平成 28 年度教員個人評価について	1
1. 教員個人評価の実施状況	2
1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など	2
1.2. 教員個人評価の実施概要	2
1.2.1. 評価組織	2
1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等	2
1.2.3. 添付資料	4
2. 工学系研究科, 理工学部教員ならびに職員(教育研究支援職員及び事務系職員)が組織的に一丸となって行った教育研究活動等	5
3. 評価領域別の集計及び分析	7
3.1. 教育の領域	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項	7
3.1.2. 教育改善に関する事項	9
3.1.3. 教育研修・FDに関する事項	13
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項	15
3.1.5. 学生の受賞等	16
3.2. 研究の領域	19
3.2.1. 著書, 論文等の発表実績	19
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績	21
3.2.3. 受賞等の実績	23
3.3. 国際・社会貢献の領域	24
3.3.1. 国際交流実績	24
3.3.2. 社会貢献実績	25
3.4. 組織運営の領域	28
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価	31
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度	31
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム	33
4.3. 評価委員からのコメント	41
平成 29 年度工学系研究科評価委員会委員	46



## 平成 28 年度教員個人評価について

大学院工学系研究科における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、大学院工学系研究科評価委員会の下に置かれた大学院工学系研究科個人評価実施委員会において行うこととされ、本報告書は平成 28 年度の個人評価を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の 4 つの観点から、それぞれ教員が 5 段階評価を行います。次に、個人評価実施委員会が、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本研究科と学部との目標達成に向けた活動という観点から個人評価点の妥当性を点検します。

各専攻・学科の詳細は本編に記載されていますので、工学系研究科・理工学部としてのまとめを以下に整理します。

個人評価の実施状況については、全ての教員が回答していることより個人評価に対する教員の積極的な取り組みが伺えます。評価の 4 つの観点において全て高く自己評価する（評価される）ことがベストとは考えますが、該当年度の役職や職位により差が出る観点があると思います。しかし、教育・研究は大学の使命であり、十分なレベルが要望されています。

教育活動では、組織的には環境・エネルギー科学グローバルプログラム（PPGA）および大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)を提供しており、学科および専攻においては適切な授業科目数を担当しており、十分な研究指導も実施されています。また、実効的な教育改善および学生相談にも取り組んでいます。これらの結果が 29 件の学生受賞に表れたものと思います。

研究における活発な活動は、多くの学術論文掲載数、57 件の共同研究、7 件の受賞、という成果となって表れていると考えます。

国際交流では、組織的には 3 件の国際パートナーシップを実施し、学科および専攻では 37 件の国際共同研究・国際セミナー開催・国際会議発表等の実績を挙げています。

社会貢献では、108 件のジョイントセミナー・高大連携行事・佐賀県とのコラボ事業・佐賀県内企業とのコラボ事業・学会活動を実施しており、十分な実績と考えます。

組織運営は、上述しました差は認められますが、十分な取り組みが行われています。

本報告書に示されています様に教員の多大な尽力が認められますが、これに満足することなく、“流れる水は腐らず”の諺の様に全教員がいつも生き生きとして活動し、PDCA サイクルにより常に向上して欲しいと願っています。今後も教員一丸となって取り組みますので、皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

工学系研究科長・理工学部長  
渡 孝則

## 1. 教員個人評価の実施状況

### 1.1. 対象教員数，個人評価実施者数，実施率など

大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授，准教授，講師，助教）に対して，別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し，下記表のとおり全員から回答を得た（回答率 100%）。（平成 29.6.28 現在）

専攻	対象教員数	回答率(%)
数理科学専攻	11	100
物理科学専攻	13	100
知能情報システム学専攻	16	100
循環物質化学専攻	19	100
機械システム工学専攻	19	100
電気電子工学専攻	17	100
都市工学専攻	19	100
先端融合工学専攻	20	100
工学系研究科（合計）	134	100

### 1.2. 教員個人評価の実施概要

#### 1.2.1. 評価組織

工学系研究科（理工学部）評価委員会ならびに工学系研究科（理工学部）個人評価実施委員会

#### 1.2.2. 実施経緯，内容，方法等

① 平成 29 年 1 月 30 日

- 大学情報基礎データベースシステム全学管理責任者から，全教員に対し，評価基礎情報データベースおよび研究業績データベースへのデータ入力について依頼した。

② 平成 29 年 3 月 13 日

- 研究科長は，全教員に対し平成 28 年度活動の自己点検・評価を依頼し，別紙様式 1，3，4 を 3 月 17 日から 4 月 14 日までの間に提出を依頼した。

同時に，平成 29 年度の各様式もメールにて送付し，別紙様式 1（平成 29 年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。

③ 平成 29 年 4 月 12 日 第 1 回工学系研究科評価委員会開催

- 平成 28 年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
  - 平成 28 年度教員個人評価集計と分析報告書（様式）について決定した。
  - 工学系研究科個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法の様式を決定した。
  - 平成 29 年度工学系研究科自己点検・評価スケジュールを決定した。
- ④ 平成 29 年 5 月 11 日
- 副研究科長(評価担当)は、評価実施委員(各専攻長)に、各教員から提出された平成 28 年度の各別紙様式（1. 3. 4）, 「個人評価用集計シート」, 「個人評価用集計ツール」, 「個人業績集約の方法」, 「平成 28 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」の様式を送付し, 「平成 28 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」の作成を依頼した。（USB メモリーを手渡した。）
- ⑤ 平成 29 年 5 月 11 日
- 研究科長は、評価実施委員に、平成 28 年度活動の「個人目標申告書」（別紙様式 1）, サーバーにアップロードされた評価基礎情報データ, 及び「個人評価結果」（別紙様式 3）に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、平成 28 年度活動の「個人評価結果」（別紙様式 4）への記載を依頼した。併せて、平成 28 年度活動の個人評価結果について、各専攻の集計と分析と「平成 28 年度教員個人評価集計と分析（専攻）」への記載を依頼した。
- ⑥ 平成 29 年 6 月 27 日
- 評価実施委員は、「平成 28 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」を副研究科長（評価担当）へ報告した。
- ⑦ 平成 29 年 6 月 27 日
- 評価実施委員は、平成 28 年度活動の「個人評価結果」（別紙様式 4, 別紙様式 1・3 も含む）および「平成 28 年度教員個人評価集計と分析（専攻）」を研究科長へ報告した。
- ⑧ 平成 29 年 7 月上旬～9 下旬
- 研究科長は、平成 28 年度活動の「個人目標申告書」（別紙様式 1）, サーバーにアップロードされた評価基礎情報データ, 及び「個人評価結果」（別紙様式 3）に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、評価実施委員が記載した平成 28 年度活動の「個人評価結果」（別紙様式 4）の評価内容を確認し、必要があれば評価結果の補足等及び研究科長コメントを記載した。なお、研究科長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めた。また、研究科長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取した。
- ⑨ 平成 29 年 10 月 10 日
- 研究科長は、平成 28 年度活動の「個人評価結果」（別紙様式 4）を、当該教員

に封書で通知した。その際、「平成 28 年度教員個人評価集計と分析（専攻）」を添付した。

- なお、各教員は個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後 2 週間以内に異議申立書（様式任意）を研究科長に提出することとなった。

⑩ 平成 29 年 12 月 26 日

- 副研究科長（評価担当）は、工学系研究科の平成 28 年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。

⑪ 平成 30 年 1 月上旬

- 研究科長は、工学系研究科の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、工学系研究科評価委員会に対し、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。

⑫ 平成 30 年 1 月中旬

- 評価委員会は、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を研究科長に報告する。

⑬ 平成 30 年 1 月中旬

- 研究科長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて工学系研究科教員の個人評価結果を学長に報告する。

### 1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学大学院工学系研究科における教員の個人評価に関する実施基準

「大学院工学系研究科における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：工学系研究科・理工学部教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）



## 2. 工学系研究科，理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となって行った教育研究活動等

工学系研究科教員ならびに職員が組織的に一丸となって行った教育研究活動等を以下に示す。

- 工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：平成 28 年度のパートナー機関は，同済大学（中国），上海交通大学（中国），大邱大学（大韓民国），延世大学（大韓民国）（平成 28 年度自己点検・評価報告書 13-2-2）
  - 数理学専攻，物理学専攻，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が参画
- 環境・エネルギー科学グローバルプログラム（PPGA）（2013 年 10 月より）（平成 28 年度自己点検・評価報告書 5-4-3(4)）
  - 外国人留学生と日本人学生が共学し，世界的な環境とエネルギー問題の解決に関する講義などの教育カリキュラムを全て英語で実施するプログラムである。
  - 前期課程プログラムは，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が，また博士後期課程プログラムは，システム創成科学専攻の化学，機械，電気電子，都市，先端融合分野の教員が参画
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)（平成 28 年度自己点検・評価報告書 5-4-3(4)）
  - 佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程の教育プログラムで，学术交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し，佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために，佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け，アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである。工学系研究科博士後期課程担当の教員が参画
- 学生の留年率，就職率，進学率の改善に対する取組み(平成 28 年度自己点検・評価報告書 6-2)
- 佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）（平成 28 年度自己点検・評価報告書 13-2-1）
  - 佐賀大学の交流協定校に所属する学生を対象とした短期留学プログラムで，日本語コース（SPACE-J：学部生および修士課程の院生が対象）と，英語コース（SPACE-E：学部生のみが対象）がある。佐賀大学での学習や研究，また日本人学生や地域の人々とのふれあいを通じて，日本社会についての知識や理解を深める。学生の受け入れや講義，自由研究を担当
- 高等学校とのジョイントセミナーで各専攻の教員が高等学校を訪問し，ミニ講義，模擬講義，大学，学部，学科紹介を実施。佐賀県立致遠館高等学校スーパーサイ

エンスハイスクール事業において研究者招聘講座および理系ガイダンス講座を連携して実施(平成 28 年度自己点検・評価報告書 12-2-1)

- 環境美化エコ活動

- 光熱水量使用料金の抑制：平成 18 年度から使用量に応じて負担する受益者負担制度を導入，夏季および冬季の空調交互運転，光熱水料の推移をグラフで表示し掲示板に掲示，エアコン,照明器具の更新に当たっては省エネタイプに切り替え(平成 28 年度自己点検・評価報告書 10-1-5(2))
- オープンキャンパス実施前(平成 28 年 8 月 8 日)のキャンパスクリーンデーにおける一斉清掃

### 3. 評価領域別の集計及び分析

#### 3.1. 教育の領域

##### 3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部，修士），担当コマ数（半期当り換算），卒業研究指導学生数，修士特別研究指導学生数，博士研究指導学生数（主指導）の平均値を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数

専攻	職種	学部 (教養教育科目を含む)			大学院			
		担当科目数/ 教員	担当コマ数	卒研学生指導数	担当科目数/ 教員	担当コマ数	修士学生指導数	博士学生指導数
数理科学専攻	教授	4.60	4.60	2.80	1.80	1.80	1.20	0.40
	准教授 (含講師)	4.67	4.33	2.83	1.17	1.17	1.50	0.00
物理科学専攻	教授	6.43	6.86	3.00	3.14	5.07	2.71	0.14
	准教授	5.00	6.58	2.83	2.00	2.07	2.67	0.17
知能情報 システム学専攻	教授	6.71	5.40	4.86	2.14	2.14	3.00	0.71
	准教授 (含講師)	4.67	5.35	3.83	1.00	1.00	1.50	0.17
	助教	2.00	2.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
循環物質化学 専攻	教授	8.00	8.99	3.89	5.33	3.79	2.83	0.72
	准教授	7.86	7.33	2.86	4.29	3.67	3.00	0.14
	助教	6.33	5.00	2.67	0.00	0.00	0.00	0.00
機械システム 工学専攻	教授	4.14	3.93	4.00	2.29	1.89	3.29	1.29
	准教授 (含講師)	5.40	5.69	3.00	2.00	1.40	3.20	0.10
	助教	2.00	4.50	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
電気電子工学 専攻	教授	3.00	2.96	4.57	4.57	3.72	6.00	1.00
	准教授 (含講師)	5.00	6.44	2.86	5	4.09	2.43	0.14
	助教	3.00	5	1.33	0	0	0.33	0
都市工学専攻	教授	6.89	6.68	3.67	2.67	2.53	2.56	1.33
	准教授 (含講師)	5.44	5.76	3.11	1.67	1.64	2.56	0.00
	助教	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
先端融合工学 専攻	教授	5.25	3.83	3.75	5.63	4.00	4.19	1.06
	准教授	5.67	7.40	3.22	5.11	4.64	3.67	0.00
	助教	2.33	3.17	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00

受講生数は教務システムに登録された履修者数  
 授業担当コマ数は，半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科目を複数教員で担当する場合は，実働時間とする。

#### 【数理科学専攻】

- 教授と准教授は概ね同数の科目を担当している。また、卒業研究や修士課程の主任指導に関しても概ね同数を担当している。

#### 【物理学専攻】

- 教授、准教授ともほぼ同等の科目、学生の教育を担当している。
- 博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している教員がいる。
- 役職者については、負担の軽減をはかる措置を講じているが、実際はあまり軽減されていない。
- 1年生に対して、授業時間に含まれない、補習授業を学科全体で取り組み始めたので実質的な負担は増加している。

#### 【知能情報システム学専攻】

- 教授は准教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。また、准教授・講師の中に副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- 助教は演習や実験の指導を担当している。
- 本専攻では、平成25年度及び26年度に4名の教授が定年で退職され、補充人事は今年度に完了したが、教員間の教育負担の隔たりは未だ解消されていないのが現状である。

#### 【循環物質化学専攻】

- 教授、准教授ともに、学士課程と博士前期課程をあわせて年間10科目以上、コマ数でも同程度を担当している。特に、学生実験科目も担当しているので、授業のエフォートは大きいと考えられる。助教は、教授や准教授に比べると授業科目の担当数が少ないが、主に実験及び演習科目の指導を担当するとともに、主要授業科目以外の科目を担当している。
- 研究指導に関しては、准教授の方が教授よりも多くの学生を指導している。ただし、その差は少なく、また、年度によって異なるので、教授と准教授が同数程度の学生を指導していると見なすことが妥当であろう。助教は、4年次卒業研究着手時の配属学生数が教授や准教授よりも少ないので、学士課程の指導学生数は少ない。さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や生活相談など）を行っていることが報告されている。博士後期課程に関しては、主旨導の有資格者の多くは教授であるので、教授が主に博士後期課程学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

#### 【機械システム工学専攻】

- 担当科目数について、教授と准教授・講師の数値はほぼ同じである。准教授・講師の数値が若干高いのは、実験や演習など複数教員で同時に担当する科目を担当していることによると考えられる。
- 助教は機械工学実験Ⅰ、機械工学実験Ⅱ、大学入門科目（創造工学入門）などで実験

や演習の指導を担当している。

#### 【電気電子工学専攻】

- 准教授は教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。また、博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- 助教は主に実験指導を担当している。年間を通じて 1 コマ程度の学部講義も担当している。指導する学生数は平均 90 人で前期後期を通じて 5 コマを担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）やチューター担当を行っていることが報告されている。

#### 【都市工学専攻】

- 教授は准教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。また、准教授の中には副指導教員となって、博士学生に実質指導を行っている教員がいる。助教は主に実験指導を担当している。
- 指導する学生数は卒業研究（講師以上）で平均 3.4 人、修士指導（講師以上）で平均 2.6 人、博士主任指導（教授）で平均 1.3 人である。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

#### 【先端融合工学専攻】

- 教授については、学部の授業担当科目数（平均）は 5.25、卒業研究指導学生数（平均）は 3.83、大学院の授業担当科目数（平均）は 5.63、修士指導学生数（平均）は 4.19、博士主任指導学生数（平均）は 1.06 である。
- 准教授については、学部の授業担当科目数（平均）は 5.67、卒業研究指導学生数（平均）は 3.22、大学院の授業担当科目数（平均）は 5.11、修士指導学生数（平均）は 3.67 である。
- 助教は主に学部の実験指導を担当している。この他、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習および生活に関わる相談等）を行っている。

### 3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、工学系研究科各専攻の教員は、次のような取り組み、実践を行っている。

#### 【数理科学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- シラバスのリンク欄からレポート課題をダウンロードできるようにした。（准教授）
- オフィスアワーの設定時間以外にも、質問や相談に応じた。特に卒業研究や修士論文の作成・発表においては随時相談に乗り、学習方法やプレゼンの方法等について指導した。（教授）
- 講義に関する質問が多くあったため、それに対応した。また学生時代に就職活動をした経験を活かして、就職活動に関する指導を行った。（准教授）
- 専門科目の講義においては、基礎的な内容を復習しながら高度な内容にも触れるこ

とができた。また、アクチュアリー試験に関する講義を行い、就職に向けた教育も行った。(准教授)

- アクチュアリー関係のテーマの卒業研究を実施し、その内容をまとめて発表させた。(教授)
- 受講生のレベルに応じた解りやすい講義を行い、授業評価アンケートを用いた教育評価・分析を行った。(教授)
- チューターを務める留年生に対してラーニングポートフォリオを活用し、就学状況を分析し、適宜アドバイスを行った。(教授)

#### 【物理科学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- LMS を活用している。(教授)
- 時間外学習が可能ないようにテキストなど教材を作成し、学生に提供している。(教授)
- グループ学習を取り入れている。(教授)
- シラバスに自習課題を記載している。さらに、原則として毎回演習を行い、答案を回収、採点、返却し、解答例を配布している。(教授)
- 留年生の発生を抑制するために1年時に、基礎必修科目(力学、数学)の学習到達度が低いものに対し、学科全体としてチューターが補習を行い、再試験を行った。(負担が大きいため、1年次の限られた科目だけで試行し、今後成果を見極める)
- 成績不振者に対して、補習、再試験を行い挽回の機会を与える科目もある。(賛否両論あるため、教員個人に判断は任されている)

#### 【知能情報システム学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- コミュニケーションカードの活用や、演習、課題の相互採点などの取り組みを行った。(教授)
- 講義はすべて録画して、ストリーミング配信した。(教授)
- 担当した講義資料および成績資料ファイルをすべてファイルにまとめて資料室に置いた。(教授)
- 授業内で演習を行い、全学生に対して全問ができるまで指導した。(教授)
- 毎週、具体的に予習宿題を出し、その内容に関する小テストを行った。(教授)
- TBL 型の講義にし、グループワーク形式で課題に取り組みせ、学生に発表させた後に教員が解説することにより、その場で理解が深まるような配慮をした。(教授)
- 知能情報システム学科独自開発の修学指導支援&教務成績判定システムに対し、機能拡張(顔写真表示機能の実装など)やシステム改良を行い、より使いやすいものにした。(教授)
- スライドと板書の併用を行い、両者の特徴を生かす授業の工夫を継続して実践した。(教授)
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価

結果のフィードバック等を行った。(准教授)

- Moodle を用いた小テストにより毎回の授業の復習を行えるようにした。(准教授)
- Moodle 版大福帳を活用して、毎回の授業で学生の意見・コメントを収集し、それに回答することでコミュニケーション促進を図った。(准教授)
- 卒業研究のための Moodle コースを設定し、各種の成果物提出、教育コンテンツの提示などに活用した。(准教授)
- SPACE-E プログラムで 2 名の留学生を指導し、Moodle 上で動作するアプリケーションプログラムの英語化を行った。(准教授)

#### 【循環物質化学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- JABEE 受審報告、障害学生支援などの学内での教育研修等へ参加し、教育改善に努めた。(教授・准教授)
- 講義内容を確実に理解し定着させるために、講義の後に演習を行い理解力の向上に努めた。成績分布は二極化したものの全体的な理解力は昨年よりも向上した(教授)
- PowerPoint を使った課題問題に対する解答と中間・期末試験の答案返却にともなう解答の解説を行った。(教授)
- PowerPoint の内容を受講生が理解しやすいように一部改訂した。(教授)
- 前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛けると共に、これを実践した。(准教授)

#### 【機械システム工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- シラバスを公開して、授業計画を周知するとともに、科目と学習教育目標との対応関係を明示。
- 中間試験を実施し、自主学習を促進。
- 演習レポートに対する詳細な添削指導。
- 演習レポートを毎回提出させることで、学習の習熟度を促進。
- パワーポイントを効果的に使用するなど、学生の理解を深めるような講義の工夫
- 基礎的学問の内容が、社会（特に工学分野）で実際にどのように役立つかを意識づけ。
- 卒業研究で配属された学生を対象に勉強会を開いて専門教育を充実。
- JABEE の基準をベースとして担当した科目の授業を行い、その結果をFDレポートにまとめて報告。
- 不合格者に対して面談を行ない、理解できていない点を指摘し、定期試験解答例を配布。
- 学生の学習意欲の向上を目的に、学生に達成度評価をフィードバック。
- 前年度の授業評価アンケート等で得られた改善内容を、本年度の講義にフィードバ

ック。

- 学生による研究成果の報告をサポートし、国際会議等での発表を指導。
- オフィスアワーを設け、学生からの学習・進路等の相談に対応。
- 博士後期課程の学生を受け入れ、博士学生定員を充足に努力。
- Web上に講義ノート、演習課題の模範解答を公開し、予習復習をサポート。
- TAの活用により授業時間中に理解不足の学生に対する個別のフォロー。
- 企業における問題に対して対策を自ら考え、提案を行い、ものづくりを学び、機械工学の関心を高め、就業と地域企業への理解を深められるようになるために、地域連携実践キャリア教育を実施。

#### 【電気電子工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 講義ノートの作成と Web 公開（教授）
- 演習問題の見直しを行った。（教授）
- 授業参観によるコメントにより、講義内容を改善した。（教授）
- 同僚である教員の授業を参観して学生の反応を自分の目で観察し、自分の授業と比較することで、自分の授業の長所と改善点を明確にした。（准教授）
- 板書とプロジェクタを併用して講義を行うことで理解度の向上に努めた。また、使用するスライドは毎回印刷し配布することで自主学習の促進を目指した。（教授）
- 昨年の試験問題を LiveCampus にアップロードし、自学自習に資するよう指導した。デモ実験を行い、授業での学習内容を体験的に習得できるよう配慮した。（教授）
- 同一学科所属教員の担当する授業科目について、相互チェックの観点から授業参観に赴いた。（准教授）
- 電気電子工学科で組織的に行っている授業参観を行い、自身の授業改善につなげた。（教授）
- 昨年度までの実験が地味で面白みがなかったため、学生の実験に対する意欲を高めるために、新たに実験内容を変更した。（准教授）
- 学生の理解を助けるため、説明の前に、理解が困難、容易かを事前に教えるようにした。（教授）
- PPGA 学生の履修により英語での講義となったので、講義で使用するスライドを毎回印刷し配布することで、理解度の向上と自主学習の促進を目指した。（教授）
- PPGA 科目として実施に際して、授業は英語で行うとともに、スライドは日本語・英語の 2 種類を作成し、日本人学生への配慮を行った。（教授）
- ほぼ毎回演習問題を課し、授業時間中に終わらなかったものについては宿題として取り組ませた。（教授）
- 授業外学習を促すため、毎回、自習課題を課し、次回の講義前に提出させた。（教授）
- 中間試験前、定期試験前に前年度の試験問題を LiveCampus によりダウンロードできるようにし、試験対策の一助とした。（教授）



- TA を配置して演習を行い、解答の板書を指名することにより、自主的な演習を進めさせるだけにとどまらず、授業及び演習後に毎回宿題を課して自主学習させている。また、毎回解答例を開示することにより、復習させた。（教授）

#### 【都市工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 授業評価アンケートの結果をもとに次年度に向けた改善点を明らかにした。（予習、シラバス）（教授）
- 学生のリスニング能力を高める為に講義は英語のみで行った。（准教授）
- 必要に応じてテストや成績評価に関する説明を英語と日本語で行った。（准教授）
- 講義の最後に自由演習の時間を設けて学生の希望に合わせて演習を行い、質問や相談などを対応する機会を増やした。（准教授）
- クラス平均成績を前期で行われた全学英語能力試験の結果と比較するとリスニングは7%、リーディングは12%、トータルスコアは9%上昇した。受講する前と比べて成績評価基準を達成できた学生は10%増加した。（准教授）
- アクティブラーニング（グループディスカッション）を取り入れた。（准教授）
- PPGA クラスと日本人学生クラスで同じ内容の英文ならびに和文のテキストを併用し、英語による授業として講義を行った。リモートセンシングに関する技術用語の単語帳作成を行わせた。（教授）
- リモートセンシングに関する技術用語の単語帳作成を行わせた。（教授）

#### 【先端融合工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 組織的に授業参観を行っている。（教授）
- Web 上で24時間利用可能な履修者との情報交換および共有するシステムを構築した。（教授）
- 講義で国際単位系についてその構成と使用方法を紹介した。（教授）
- 学生の理解を助けるため、説明の前に、理解が困難、容易かを事前に教えるようにした。（教授）
- 講義内で簡単な実験を行った。（准教授）
- 学生実験を学生が興味を持つテーマ・内容に変更した。（准教授）
- JABEE の審査方法を確認の上、成績評価方法を示した。（准教授）

### 3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FD について、工学系研究科各専攻の教員は専攻内での FD 活動の他、次の活動を行っている。

#### 【数理科学専攻】

- 工学系研究科 FD 報告会（教授）
- 本庄地区ティーチング・ポートフォリオ・ミニワークショップ（教授）
- 学生支援についての講演会（教授）

への参加が報告されていた。

#### 【物理科学専攻】

- 全員が（簡易版）ティーチングポートフォリオを作成した。
- 工学系研究科・理工学部FD講演会に参加した。（教授、准教授）
- 佐大で開催した日本学術振興会特別研究員説明会で講演を行った（准教授）

#### 【知能情報システム学専攻】

- 工学系研究科FD報告会への参加（教授、准教授）
- 学内のループリックおよびアクティブ・ラーニングワークショップ、ティーチング・ポートフォリオ作成WS（2回）（教授）
- 「学生主体の授業運営手法」ワークショップ（芝浦工業大学）などに参加し、その内容を授業に取り入れ、教育の質の向上に努めた。（教授）
- 教授会でサバティカル研修の結果報告をおこなった。（講師）

#### 【循環物質化学専攻】

専攻内での教育プログラム委員会及び教育FD委員会による、授業改善について議論や教員個人のFD活動の他、

- 工学系研究科FD報告会（教授、准教授）
- 安全貿易保障講演会（教授）
- 『特許申請等の知財管理の方針』に関する説明会（教授）
- 演劇手法によるコミュニケーション能力向上プログラムの開発（教授）
- 『佐賀大学学生支援室【集中支援部門】FD講演会（教授）
- FD・SDフォーラム（准教授）

への参加が報告されていた。

#### 【機械システム工学専攻】

- 専攻・学科内に設置した教務・JABEEグループによるJABEE基準適合対応，学部および大学院の教務関連事項の検討
- 学部FD講演会への参加
- 地域連携実践キャリア教育において，地域企業の方の講演を聴講することによる地域への理解促進

などが報告されている。

#### 【電気電子工学専攻】

専攻内でのFD活動として下記の活動を行っている。

- 授業参観の実施（全教員）
- チューター制により、年2回の個人面談を実施し、履修、単位取得状況や就学上の相談に対応している。（全教員）

専攻内でのFD活動の他、

- 工学系研究科FD報告会（教授、准教授、講師）
- 公正な研究活動の推進に関する講演会（教授）

- 第3回佐賀大学簡易版ティーチングポートフォリオミニワークショップ（教授、助教）
- 大学電気系教員協議会（教授、准教授、助教）
- 大学間連携共同教育推進事業FD・SD研修会（助教）
- 入試分析セミナー（准教授）
- 佐賀大学FD/SD研修会（准教授）
- 地元企業等への就職率向上の取組み説明会（教授）
- 「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」平成28年度第1回高度人材育成キャリア講演会（教授）
- 学生支援室集中支援部門FD講演会（教授）
- 平成28年度佐賀大学FD/SDセミナー「学生主体」の授業デザインと運営手法（准教授）
- 第4回佐賀大学標準版ティーチングポートフォリオ更新ワークショップ（教授、准教授）

への参加が報告されていた。

#### 【都市工学専攻】

専攻内でのFD活動の他、

- 工学系研究科FD報告会（教授、准教授）
- 佐賀大学FD/SDセミナー（准教授）

への参加が報告されていた。

#### 【先端融合工学専攻】

学科および専攻内でのFD活動の他、以下が報告された。

- 工学系研究科FD講演会への参加（教授、准教授）
- TPワークショップへの参加（教授、准教授）
- 企業が行う講演会・講習会への参加（教授、准教授）
- 佐賀県内企業見学の主催・参加（准教授）

### 3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、工学系研究科内の全ての教員が行っている。専攻ごとの相談内容については、以下のとおりである。

#### 【数理科学専攻】

- 相談内容は学習方法や将来の進路に関するものが多い。（教授、准教授）

#### 【物理科学専攻】

- 成績不振者を学科全体で把握しチューターを中心に、学生（時には両親）と面接するなど、学生の学習体制の改善をはかり、留年率を下げするための努力に取り組んでいる。
- 進路不明者を出さないために、指導教員を中心に就職担当と協力し学生の就職、進学支援を行っている。

- 学生のオフィスアワーでの相談率は1割程度と低く、制度があまり有効に機能していないように思える。また、オフィスアワー以外での訪問を躊躇する学生もいる。

#### 【知能情報システム学専攻】

- 相談内容は研究や授業内容への質問や相談、履修に関することや進路に関する相談が多い。（教授，准教授）

#### 【循環物質化学専攻】

- オフィスアワーは全教員が設定しており、学生の訪問に対応している。
- オフィスアワー以外の時間においても、教員は学生の訪問・相談に適宜対応している。
- 学生からのメールによる相談についても対応している。
- 学期毎に全学生に対し、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター面談を実施している。
- 学生の訪問・相談は、専攻主任や教務委員、教育プログラム委員長、就職担当教員などに対するものが多い。
- 相談内容は、授業に関する質問が最も多く、その他履修上の相談や就職に関する相談・報告、進路等の相談など多岐にわたる。

#### 【機械システム工学専攻】

- 相談内容は学修相談と就職・進路相談が各々全体の半数ずつで、それ以外には生活相談を実施している。

#### 【電気電子工学専攻】

- 各教員ともオフィスアワーを設定しているが、オフィスアワー以外についても多くの教員が時間を割いて対応している。（全教員）
- 相談内容は学修相談や進路に関するものが多い。（全教員）
- 卒研究生，大学院生については、指導教員が相談担当の役割を果たしている。

#### 【都市工学専攻】

- 相談内容は学習・成績や就職に関するものが多い。（教授，准教授）

#### 【先端融合工学専攻】

- オフィスアワー以外の面談が多いが、適切に対応している。電子メールによる相談にも対応している。内容は教務事項および就職相談が多い。

### 3.1.5. 学生の受賞等

#### 【知能情報システム学専攻】

- The 22nd International Symposium on Artificial Life and Robotics において発表した大学院生(博士前期課程)が Student Paper Award を受賞した。（指導教員：教授）
- 平成 27 年度第 4 回（通算第 32 回）IOT 研究会 優秀学生賞（指導教員：准教授）

#### 【循環物質化学専攻】

- The 11th Saga University-Daegu University Joint Symposium ポスター賞（指導

教員：教授・准教授)

- The International Symposium on Preparative Chemistry of Advanced Materials 2016 (遼寧大学) ポスター賞 (指導教員：教授・准教授)
- 第 19 回ヨウ素学会シンポジウム ポスター賞 (指導教員：教授)
- 佐賀大学同窓会 菱実会賞 (指導教員：教授)
- 第 3 回九州未来アワード 学生起業アイデア部門 敢闘賞 (指導教員：教授・准教授)
- 第 35 回溶媒抽出討論会 優秀ポスター賞 (指導教員：教授)

#### 【機械システム工学専攻】

- 日本機械学会 畠山賞
- 日本機械学会 三浦賞
- 日本設計工学会 武藤栄次賞
- Young Author Award at 22nd International Symposium on Artificial Life and Robotics
- 日本機械学会 九州学生会第 48 回学生員卒業研究発表講演会優秀講演賞

#### 【電気電子工学専攻】

- 日本知能情報ファジィ学会九州支部学生優秀講演賞 (指導教員：准教授)
- 電子情報通信学会 マイクロ波研究専門委員会 2016 年度学生マイクロ波回路設計試作コンテスト 特別賞 (指導教員：教授)
- IEEE 福岡支部 2016 年 IEEE 福岡支部発表奨励賞 (第 6 回) (指導教員：教授)
- 電子情報通信学会九州支部学術奨励賞 (指導教員：教授)
- IEEE 福岡支部 2016 年 IEEE 福岡支部学生研究奨励賞 (指導教員：教授)

#### 【都市工学専攻】

- 平成 28 年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞に都市工学科より 2 名、都市工学専攻より 1 名の学生が選ばれて受賞した。
- 平成 28 年度日本コンクリート工学会九州支部長賞に都市工学科より 1 名、都市工学専攻より 1 名選ばれて受賞した。
- 平成 28 年度都市住宅学会九州支部優秀学生賞に都市工学科より 1 名選ばれ受賞した。
- 空気調和・衛生工学会第 28 回振興賞学生賞に都市工学科より 1 名選ばれ受賞した。
- 平成 28 年度日本都市計画学会九州支部長賞に都市工学科より 1 名選ばれ受賞した。
- 平成 28 年度日本建築学会九州支部長賞に都市工学科より 1 名選ばれ受賞した。
- 平成 28 年度地盤工学会九州支部優良学生賞に都市工学科より 1 名選ばれ受賞した。
- 平成 28 年度佐賀大学同窓会長賞に都市工学専攻より 1 団体 (4 名) 選ばれ受賞した。
- 学内の賞としては、平成 28 年度修士論文審査会優秀発表賞に都市工学専攻で 5 名の学生が選ばれ、同じく卒業論文審査会優秀発表賞には都市工学科で 13 名の学生が選ばれた。

**【先端融合工学専攻】**

- 計測自動制御学会九州支部大会 奨励賞（指導教員：准教授）
- 国際会議 学会賞（指導教員：教授）

### 3.2. 研究の領域

#### 3.2.1. 著書，論文等の発表実績

過去5年間（H23.4.1～H28.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表3.2に示す。

表 3.2 過去5年間（H23.4.1～H28.3.31）の発著書，論文等の発表実績平均値

専攻	職種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理科学専攻	教授	0.00	12.20	12.00	0.20	0.00	12.00	12.00
	准教授 (含講師)	0.17	3.00	3.00	0.33	0.33	2.50	2.50
物理科学専攻	教授	0.00	7.86	7.43	0.14	0.14	7.57	7.14
	准教授	0.00	45.5	46.33	0.17	0.17	45.33	46.17
知能情報 システム学専攻	教授	0.86	13.14	12.00	2.43	1.29	10.71	10.71
	准教授 (含講師)	0.50	15.67	14.17	4.00	2.50	11.67	11.67
	助教	0.00	2.33	2.33	0.00	0.00	2.33	2.33
循環物質化学 専攻	教授	0.8	18.50	18.20	0.60	0.50	17.90	17.70
	准教授	1.8	15.20	13.20	2.20	0.20	13.00	13.00
	助教	0.33	7.00	7.00	0.17	0.17	6.83	6.83
機械システム 工学専攻	教授	0.86	19.57	19.14	1.71	1.43	17.86	17.71
	准教授 (含講師)	0.40	13.20	10.90	3.60	2.10	9.60	8.80
	助教	0.00	4.00	4.00	1.00	1.00	3.00	3.00
電気電子工学 専攻	教授	1.71	27.29	27.29	2.86	2.86	24.43	24.43
	准教授 (含講師)	0.29	18.86	8.43	12.86	2.43	6.00	6.00
	助教	0.00	8.67	8.67	2.33	2.33	6.33	6.33
都市工学専攻	教授	0.33	16.89	15.89	4.56	3.89	12.33	12.00
	准教授 (含講師)	0.67	15.44	9.67	8.78	3.33	6.67	6.33
	助教	0.00	8.00	7.00	1.00	0.00	7.00	7.00
先端融合工学 専攻	教授	0.33	16.89	15.89	4.56	3.89	12.33	12.00
	准教授	0.67	15.44	9.67	8.78	3.33	6.67	6.33
	助教	0.00	8.00	7.00	1.00	0.00	7.00	7.00

#### 【数理学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、かなり良好である。
- 准教授の研究活動は、概ね良好である。

#### 【物理学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動はおおむね高い水準にあるが、昨年度と比べ低下している。
- 准教授の研究活動は非常に高いアクティビティを示している。特に、准教授が大型共同研究に取り組み始めたことが論文数を押し上げている。

#### 【知能情報システム学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、非常に活発で、口頭発表より原著論文での研究成果公表を優先しており、原著論文は和文よりも英文で記述していることが読み取れる。
- 准教授の研究活動は、非常に活発で、教授と同等ないしは上回る成果を示している。また、和文での著作物は原著論文ではなく、国内学会予稿集、研究報告、総説等の査読のないものが見られる。
- 助教の研究活動は、1名を除いて残念ながら低調であり、今後の改善が必要である。

#### 【循環物質化学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に1人平均 18.20 編の査読付き論文を報告している。
- 准教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に1人平均 13.20 編の査読付き論文を報告している。
- 助教の研究活動は良好であり、5年間に1人平均 7.00 編の査読付き論文を報告している。

いずれの教員とも、論文のほとんどが査読付きの英文である。これは、化学という分野が他分野に比して特にグローバルであることの証である。また、昨年度と比較すると、教授と准教授は数編増加していることから、平成 28 年度の研究活動が活発であったことが窺える。

#### 【機械システム工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授・講師、助教ともに概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。
- 昨年度と比較すると、特に助教の活躍がめざましい。

#### 【電気電子工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は博士後期課程学生の博士号認定資格を維持している。論文総数の



平均は5.4編以上であり、すべてが査読付きの業績である。質の高い研究成果を発表していることから非常に優れていると評価できる。

- 准教授の研究活動は博士前期課程学生の修士号認定資格を維持している。論文総数の年平均は3.7編以上であり、優れていると評価できる。
- 助教の研究活動は博士前期課程学生の指導資格を概ね維持している。論文総数の平均は1.7編以上であり、すべて査読付きであるとともに、大半が英語原著論文であることから優れていると評価できる。

#### 【都市工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、著書や査読付き論文で大きな成果を挙げている。ただし、論文数では個人差が大きく、指導する博士後期課程学生数が多い教員に査読付き論文数が集中し、逆に博士後期課程学生がほとんどいない教員では特に英文原著論文数が著しく小さくなっている。
- 准教授の研究活動は、和文の論文数で教授を上回っているが、査読付きに限定すると教授より若干少ない。ただし、論文数では個人差が大きく、必ずしも博士前期課程学生の指導数には比例していない。
- 助教の研究活動は、総論文数は多くないが、英文原著論文は准教授を若干上回っている。

#### 【先端融合工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授は5年間で平均27.50件の査読付き論文を発表している。
- 准教授は5年間で平均13.11件の査読付き論文を発表している。
- 助教は5年間で平均9.0件の査読付き論文を発表している。

### 3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

#### 【数理学専攻】

- 他大学の研究者との共同研究（教授、准教授）

#### 【物理学専攻】

- 国際リニアコライダー計画の共同研究（教授、准教授）
- LHC アトラス実験（准教授）
- 九州大学との共同研究（教授、准教授）
- 佐賀大シンクロトロンでの共同研究（教授、准教授）
- 国立台湾大学との共同研究（教授）
- 東京文化財研究所との共同研究（准教授）

#### 【知能情報システム学専攻】

- 佐賀大学医学部との共同研究（教授、准教授）
- 日韓共同研究（教授）

- 佐賀大学教育学部との共同研究（准教授）
- 東京工業大学との共同研究（准教授）
- 神戸大学、東京工業大学との共同研究（准教授）
- 熊本高専との共同研究（准教授）
- 国立研究機関（JAXA、環境研究所、気象研究所など）からの委託研究（教授）
- 農林水産省委託プロジェクト研究（教授）
- 福岡県革新補助金事業（教授）
- 他研究機関との科研費関連のプロジェクト（教授、准教授、助教）
- 民間企業（地元、関東）との共同研究（教授）

#### 【循環物質化学専攻】

- 科学研究費補助金に新規・継続合わせて7件が採択された（教授、准教授）
- 産総研九州センター（教授・准教授）
- 山形大学（教授）
- 九州大学（教授）
- 関西学院大学（教授）
- 上智大学（准教授）
- リール大学（教授・准教授）
- 九州工業大学（准教授）
- 東京理科大学（教授）
- Wilfrid Laurie 大学（教授）
- 民間企業（教授・准教授）

#### 【機械システム工学専攻】

- 再生可能エネルギー熱利用技術開発
- コストダウンを目的とした地中熱利用技術の開発/地中熱利用要素技術の開発
- HFO-1123などを成分物質とする混合冷媒の熱物性・伝熱特性評価およびヒートポンプサイクル性能評価
- AEセンサー用いた金型トラブル予見システムの開発
- 水素利用技術研究開発事業
- 燃料電池自動車及び水素ステーション用低コスト機器・システム等に関する研究開発
- 水素ステーションにおける水素計量管理方法に関する研究開発
- 画像処理によるマルチコプター制御に関する研究
- 実環境下でのマルチコプター制御に関する研究
- 機械・化学産業分野の高温熱供給に適した冷媒とヒートポンプシステム技術開発
- 熱交換器の除霜能力向上に関する研究
- 過酷環境に適した高機能メンテナンスフリー型オールメタルシーリング技術の開発
- 膝関節炎症診断装置の開発研究

など

【電気電子工学専攻】

- 九州大学応用力学研究所との共同研究（教授）
- 静岡大学電子工学研究所との共同研究（教授）
- NEDO 研究開発費補助金（高性能・高信頼性太陽光発電の発電コスト低減技術開発）（教授）
- 産業技術総合研究所との共同研究（教授）
- 佐賀県エネルギー関連産業の創出に向けた事業の実施に関する共同事業(准教授)
- 民間企業との共同研究（教授）

【都市工学専攻】

- 平成 28 年度公益事業支援事業：直列配置されたダム群による洪水制御能力の強化に関する研究（准教授）
- 科研基盤研究（C）代表（准教授）
- 科研基盤研究（B）分担（准教授）
- 平成 28 年度 JASSO 海外留学支援制度（協定受入）（教授）
- 平成 28 年度 JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）（教授）

【先端融合工学専攻】

- 学内共同研究（教授、准教授）
- 海外の大学との共同研究（教授、准教授）
- 国内他大学との共同研究（教授、准教授）
- 民間企業との共同研究，受託研究（教授、准教授）
- 独立行政法人や公的研究機関との共同研究，受託研究（教授、准教授）

### 3.2.3. 受賞等の実績

教員の指導による学生の受賞等は、3.1.5 に記載している。

【物理科学専攻】

- 日本学術振興会特別研究員審査会専門委員表彰（准教授）

【知能情報システム学専攻】

- 合同エージェントワークショップ&シンポジウム（JAWS）2016 において学生との共同研究が優秀論文賞を受賞。（助教）

【循環物質化学専攻】

- 佐賀大学より佐賀大学教育功績等表彰（教授）

【電気電子工学専攻】

- FOOMAJAPAN2016 アカデミックプラザ賞（助教）
- 第 8 回井上リサーチアワード（助教）

【都市工学専攻】

- 日本都市計画学会計画設計賞（教授）

#### 【先端融合工学専攻】

- IEEE CEFC 2016 より The Best Poster Paper Award (教授、助教)

### 3.3. 国際・社会貢献の領域

#### 3.3.1. 国際交流実績

##### 【数理学専攻】

- 国際研究集会での講演 (教授、准教授)
- 国際学会の組織委員 (教授)
- 国際研究集会での座長 (教授)
- 国外の研究者との共同研究 (教授、准教授)

##### 【物理学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ開催 (教授、准教授)
- ホームページ (英文) による研究紹介 (教授)
- SPACE-E 留学生受け入れ (教授)

##### 【知能情報システム学専攻】

- 短期、長期の留学生受け入れ (教授)

##### 【循環物質化学専攻】

- 中国遼寧大学との国際パートナーシッププログラムの主催と講師 (教授、准教授)
- 大邱大学とのジョイントセミナー講師 (准教授)
- その他国際学会での招待講演や発表 (教授、准教授)
- 外国語による HP の開設 (教授、准教授、助教)

##### 【機械システム工学専攻】

下記の内容で国際交流が進められた。

- 国際学会の Committee
- 国際会議開会の運営委員, 実行委員など
- International Journal の Editor
- 海外からの研究者の受け入れ
- 留学生の受け入れ
- 国際会議における招待講演
- 国際会議における発表等
- 外国語によるHPの開設  
など

##### 【電気電子工学専攻】

- Lawrence Berkeley National Laboratory との共同研究 (教授)
- West Virginia University との共同研究 (教授)
- Chittagong University of Engineering and Technology との共同研究 (教授)
- 武漢大学との共同研究 (国際パートナーシッププログラム) (准教授)

- 英語によるホームページの開設・更新（教授、准教授）

#### 【都市工学専攻】

- 海外大学（カントー大学（ベトナム））との学術交流協定締結（講師）
- 海外大学（浙江大学城市学院）の客員教授に就任・講演（教授）
- 海外大学の学位論文の審査員（講師）
- 海外大学（カセサート大学（タイ））との共同研究（准教授）
- 海外大学（浙江工商大学、温州大学）から客員准教授を招へい（教授）
- 海外大学への学生派遣（ウィーン工科大学）および海外学生の受け入れ（韓国、タイ、ミャンマー）（教授）

#### 【先端融合工学専攻】

- 海外大学との学部間研究交流協定を締結（准教授）
- 工学系研究科国際パートナーシップ実施（教授、助教）
- 工学系研究科の国際的交流事業に協力（准教授）
- 海外大学との教育・学術交流（講義等）（教授）
- 訪問准教授，博士研究員の受入（教授）
- 留学生，特別研究留学生の受入（教授，准教授）
- 海外大学の博士審査員（准教授）

### 3.3.2. 社会貢献実績

#### 【数理学専攻】

- 日本数学会代数学分科会評議員（教授）
- 国際研究集会での座長（教授）
- 日本数学会での座長（教授、准教授）
- 研究集会の組織委員（准教授）
- ジョイントセミナー（教授、准教授）
- 高等学校教諭との交流会の主催および出席（教授、准教授）

#### 【物理科学専攻】

- 論文査読委員（教授、准教授）
- 学会論文誌編集委員（教授、准教授）
- 物理学会領域代表（教授）
- 高大連携、SSH、ジョイントセミナーでの出前授業（教授、准教授）
- サイエンスカフェでの一般向け講演（准教授）
- 佐賀県 SSH 運営指導委員会の委員を務めた。（教授）
- 九州大学、筑波大学のアドバイザー委員。（教授）

#### 【知能情報システム学専攻】

- 学会評議員（教授、准教授）
- 学会（含支部）役員（教授）

- 学会論文査読委員（教授、准教授）
- 協会等理事（教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事、審議委員、運営委員など（教授）
- 佐賀県警 サイバー犯罪捜査実践講師担当（准教授）
- ジョイントセミナー等高大連携講義や講演会（教授、准教授）
- 大学改革支援・学位授与機構のシンポジウムのパネリスト（教授）
- 大学コンソーシアムの研修講師（教授）
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所の客員研究員（招聘型）（教授）
- 佐賀県の要請を受けたマイクロソフト・イノベーション・センター(MIC)の誘致(教授)
- 国立大学情報系センター協議会の研究論文誌の編集委員長（教授）
- 佐賀県の SSH 事業の講師（教授）
- TLO からの依頼で東京での大学の研究成果と企業とのマッチングイベントで発表(准教授)

#### 【循環物質化学専攻】

- 学会論文査読委員（教授、准教授、准教授）
- 化学工学会九州支部幹事（教授）
- 日本分析化学会九州支部幹事（教授）
- 日本溶媒抽出学会 編集委員（教授）
- 日本イオン交換学会 理事（教授）
- 日本素材物性学会編集委員（教授）
- Editorial Board of Journal of Molecular Liquids（教授）
- 日本化学会 理事（教授）
- ヨウ素学会 評議員（教授）
- 工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀（教授）
- SSH 事業 大学研修（准教授）
- ものづくり技術者育成講座（教授・准教授）
- 大学探検講座（准教授）
- 佐賀県内企業見学ツアー（准教授）
- 致遠館高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業「理系ガイダンス講座」(教授)
- 第 16 回 佐賀県理科・化学教育研究発表会（教授）
- 第 19 回連携大学院産学官交流セミナー（教授・准教授）
- 平成 28 年度佐賀大学公開講座「生命と化学」(教授)
- 九州大学大学院教育プログラム「先端学際科学」講義（教授）
- 「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」講師（教授）
- 平成 28 年度佐賀県高等学校理科教育研究大会（准教授）
- 平成 28 年度「佐賀市エコプラザ運営委員」(教授)

- 佐賀県立致遠館中学校・高等学校学校評議員（教授）
- 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員（准教授）
- 九州錯体化学懇談会運営委員会（教授）
- 佐賀県理科・化学教育懇談会総会（教授）
- 日本分析化学会 XSAO 誌編集委員会（教授）

#### 【機械システム工学専攻】

- 学会理事
- 学会常務理事
- 学会評議員
- 学会校閲委員，編集委員，運営委員
- 学会九州支部理事，評議員，商議員，常議員など
- 研究会会長，幹事など
- 学会開催の実行委員，運営委員など
- ジョイントセミナー
- スーパーサイエンスハイスクールの講師
- 佐賀大学ものづくり技術者講座育成講座
- オープンラボ
- 地域企業からの技術相談

#### 【電気電子工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授、准教授、講師）
- 電気学会論文誌 A 論文委員会委員（教授、准教授）
- プラズマ・核融合学会九州支部役員（教授）
- 電子情報通信学会電磁環境工学研究専門委員会委員（准教授）
- 電子情報通信学会九州支部学生会顧問（准教授）
- 2017 International Conference on Computational Electromagnetics (ICCEM2017) 運営委員（准教授）
- 電子情報通信学会マイクロ波研究会専門委員（准教授）
- IEICE Electronics Express 編集委員（准教授）
- 映像情報メディア学会放送技術研究会専門委員（准教授）
- 電子情報通信学会 無線電力伝送研究専門委員会専門委員（教授）
- ECCE2017 Advisory Committee member(教授)
- 欧州マイクロ波学会 (EuMA) GA メンバ（教授）
- 大学電気系教員協議会オーガナイザー（教授）
- 佐賀県立致遠館高等学校 SSH 講師（教授、准教授）
- ジョイントセミナー（教授、准教授、助教）
- 佐賀市児童中央センター科学教室講師（教授、助教）
- 鳥栖市立小学校における理系教育啓発に関する講演会講師（助教）

#### 【都市工学専攻】

- 研究生教育 “Water Environment in Lowland” (准教授)
- 全学教育機構主催「神崎塾」講師 (教授)
- 「インフラ老朽化を考えるシンポジウム 2017」講師 (教授)
- 嘉瀬川交流塾「佐賀低平地とタイの低平地における水環境」講師 (准教授)
- ジョイントセミナー事業 (教授、准教授)
- 在来知歴史学国際シンポジウム講師 (教授)
- 嘉瀬川交流塾講師 (教授)
- 市民公開シンポジウム (防災を考える) (教授)
- 第 8 回インフラ構造物長寿命化研修会 (教授)
- 第 39 回佐賀県消防職員意見発表会審査 (教授)
- 学会開催の実行委員、運営委員など (准教授)

#### 【先端融合工学専攻】

- 学会の評議委員、幹事、委員など (教授、准教授、助教)
- 学会誌の編集委員 (教授)
- 学会論文査読委員 (教授、准教授、助教)
- 学会の主催 (教授)
- 国際・国内会議の運営委員 (教授、准教授)
- 佐賀県・九州地区の審議会等の委員 (教授、准教授)
- 佐賀県高等学校理科教育研究大会講師 (准教授)
- 地域企業からの技術相談・共同研究 (教授、准教授)
- スーパーサイエンスハイスクール事業講師 (教授)
- 高専の非常勤講師 (准教授)
- 他医科大学研修員 (准教授)
- ジョイントセミナー (教授、准教授)
- オープンキャンパス実施 (教授、准教授)

### 3.4. 組織運営の領域

#### 【数理学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当 (全教員)
- 工学系研究科の学生委員長を務めた。 (教授)
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加 (全教員)

#### 【物理学専攻】

- 研究科長補佐や工学系研究科各種委員の担当 (教授、准教授)
- 学科内の各種委員の担当 (教授、准教授)

など、学内及び研究科等の運営において重要な役割を果たしている。

#### 【知能情報システム学専攻】



- 学長補佐（教授）
- 全学委員の担当（教授、准教授）
- 全学委員会の委員長（教授）
- 工学系研究科委員会の委員長（教授）
- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 他部局やセンターの運営委員、併任教員（教授、准教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 学科独自の就学支援システムの開発、改良、運用（教授）

#### 【循環物質化学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- アドミッションセンター長（教授）
- 教養教育運営機構副機構長（教授）
- 全学教育機構副機構長・高等教育開発室長（教授）
- 大学教育委員会副委員長（教授）
- 大学教育委員会企画・評価専門委員会委員長（教授）
- 知財戦略・技術移転部門長（教授）
- 工学系研究科副研究科長（教授）
- 工学系研究科連携大学院運営委員会委員長（教授）
- 工学系研究科学生委員長（教授）
- 工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、准教授、助教）

など、全学センター長、各種全学委員会委員長や工学系研究科委員会委員長として、組織運営に大きく貢献している。

#### 【機械システム工学専攻】

- 工学系研究科・理工学部各種委員の担当（全教員）
- 各種全学委員会委員
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 後援会協賛のOB懇談会開催

#### 【電気電子工学専攻】

- 全学委員会委員（教授、准教授）
- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 専攻・学科関連各種委員（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

#### 【都市工学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 全学委員会委員（教授、准教授）
- 専攻内教育システム委員会（教授、准教授）

- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教

**【先端融合工学専攻】**

- 全学および工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

#### 4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

##### 4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの専攻の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

専攻	職種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学専攻	教授	3-4	60-85	3-5	60-90	3-4	60-85	3-5	70-95	3-4
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	2-5	50-90	0-4	0-80	3-5	60-100	3-4.5
物理科学専攻	教授	3-4	60-90	2-4	40-80	2-4	30-90	2-4	50-90	2-3
	准教授	3-4	60-80	3-4	50-80	1-3	0-80	1-4	0-80	2-4
知能情報 システム学 専攻	教授	4-5	80-100	4-5	70-100	4-5	75-100	4-5	80-100	4-5
	准教授 (含講師)	4-5	80-100	4-5	95-100	3-5	80-100	3-5	80-100	3-5
	助教	3-4	80-100	3-4	40-100	3-4	10-100	3-4	80-100	3-3
循環物質化学 専攻	教授	3-5	50-100	2-5	50-100	3-5	80-100	4-5	80-100	3-5
	准教授	3-5	80-100	2-5	80-100	3-5	50-100	2-5	0-100	3-5
	助教	2-4	40-80	2-3	40-70	2-3	40-60	2-5	40-90	2-3
機械システム 工学専攻	教授	4-5	80-100	3-5	60-100	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	60-100	3-5	70-100	3-5
	助教	3-4	70-100	3-4	70-100	3-4	70-100	3-4	70-100	3-4
電気電子工学 専攻	教授	3-5	70-122	4-5	80-178	3-5	65-197	4-5	80-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-91	2-5	40-90	3-5	70-90	3-5	70-94	3-4
	助教	4-4	70-80	4-4	70-90	4-5	80-95	4-4	80-85	4-4
都市工学専攻	教授	3-5	60-100	3-5	70-100	4-5	70-100	3-5	70-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	80-100	3-5	50-100	3-5	60-100	3-5	70-100	3-5
	助教	3-3	50-50	4-4	80-80	2-2	40-40	3-3	50-50	3-3
先端融合工学 専攻	教授	4-5	70-95	3-5	60-100	4-5	50-100	4-5	80-100	4-5
	准教授	3-5	60-100	3-5	60-100	2-5	30-100	4-5	60-100	3-5
	助教	4-4	70-80	3-5	60-100	3-3	50-70	3-5	70-100	3-4

表中、例えば、評価点(3-4)は（最小値 3—最大値 4）であったことを表す。

**【数理学専攻】**

この表から、各教員は公正な自己評価を行っていると思われる。

**【物理学専攻】**

この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

**【知能情報システム学専攻】**

この表から、各教員は客観的かつ適切な自己評価を行っていると思われる。

**【循環物質化学専攻】**

この表から、達成率は実績を反映していると考えられる。しかし、評価点は、統一的な基準がなく、教員毎の基準で判断されるために、過大、過小が入り交じっていると考えられる。大まかには、厳しい評価が教授や助教に散見され、准教授はその逆である。これは、立場の違いを反映しているように思われる。ともかく、自己評価は教員自身のためであり、他者がそれをさらに評価することは無意味であろう。

**【機械システム工学専攻】**

この表から、ほとんどの教員においてはそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。一方で、一部の教員については本学および本学部の目標達成に向けた活動という観点から判断して自己総合評価が若干低いように思われる。実際より控えめの自己評価を行っているとも推察できるが、より高い達成率・総合評価を目指すよう努めたい。

**【電気電子工学専攻】**

この表から、各教員は概ね良好な自己評価を行っていると思われるが、自己評価の方法にばらつきがある。

**【都市工学専攻】**

この表から、各教員は厳格な自己評価を行っていると思われる。

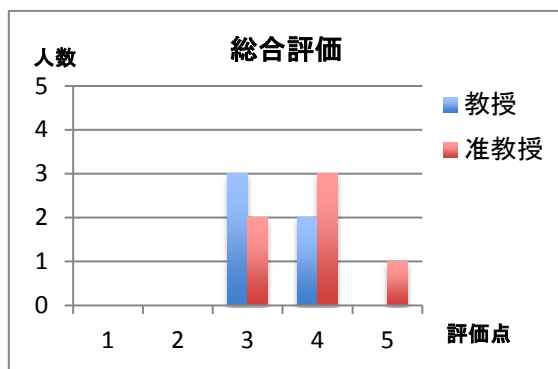
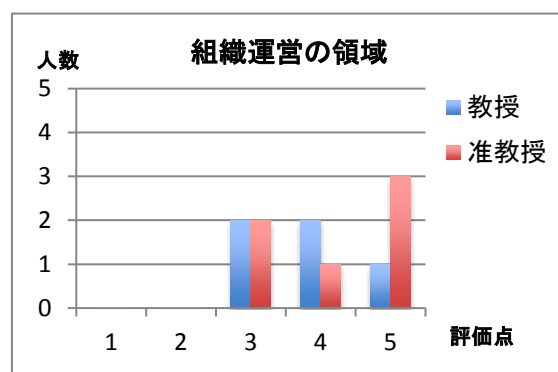
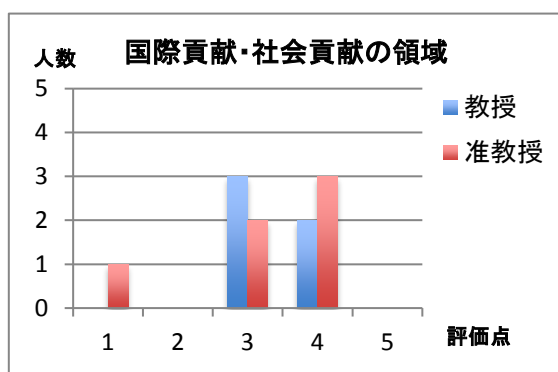
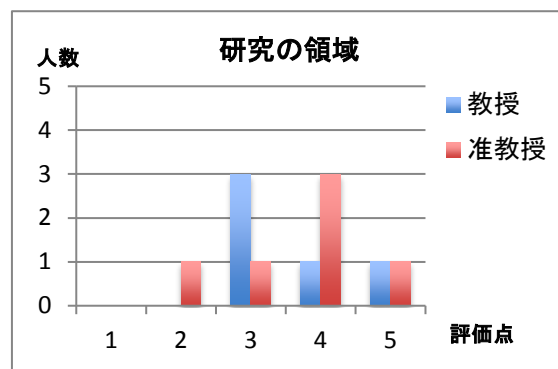
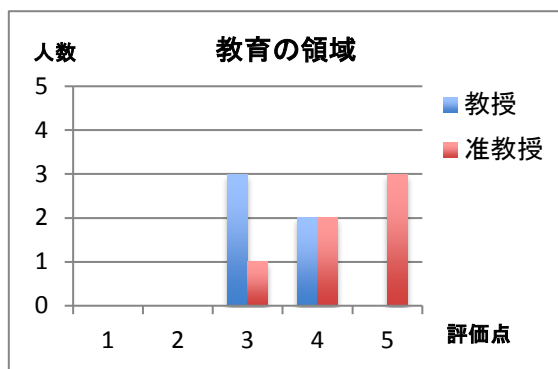
**【先端融合工学専攻】**

各領域の評価点は2・5の範囲にわたり、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。また、総合評価の評価点の平均値は3.9、CVは1.0であり、各自の設定した目標は概ね良好に達成されていると判断した。総合評価の評点が、教授>准教授>助教の順となっているが、准教授、助教において高い目標を掲げているにもかかわらず、自己評価が低めになっていることが原因と解釈できる。

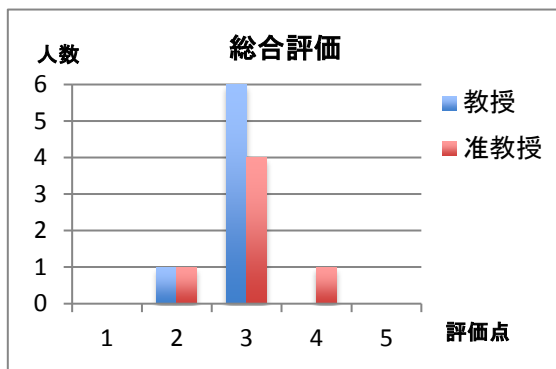
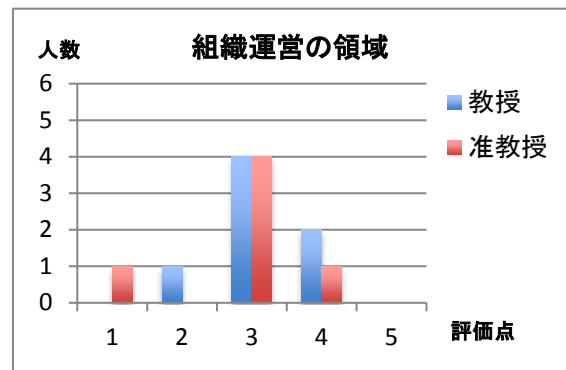
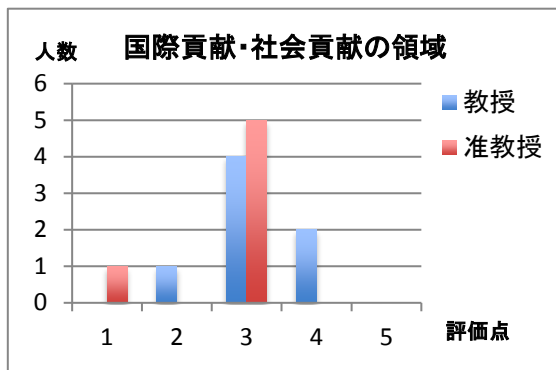
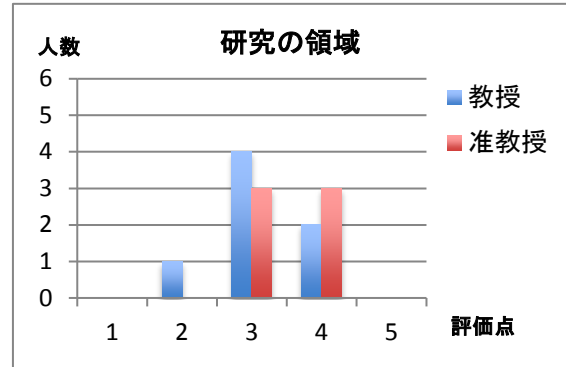
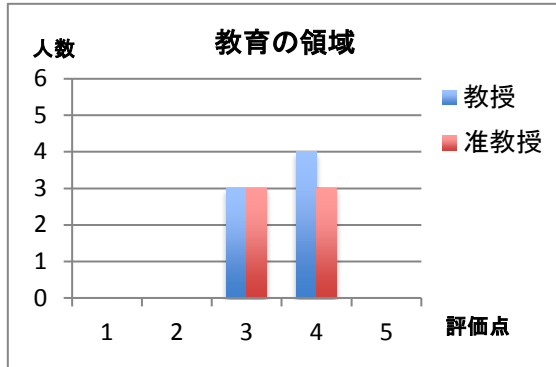
#### 4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり専攻毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

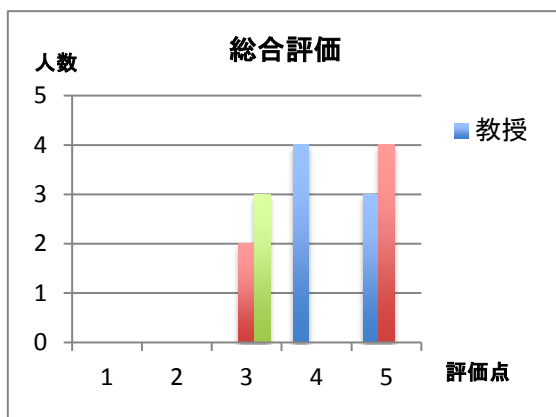
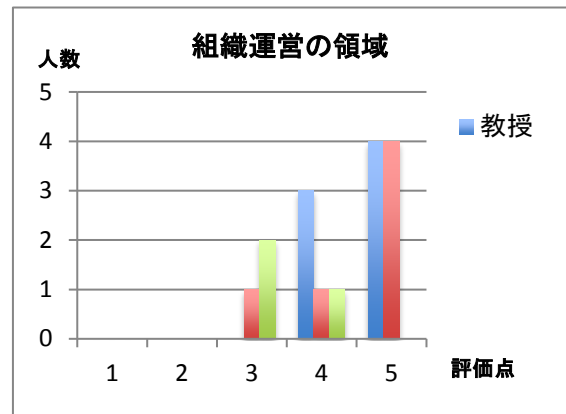
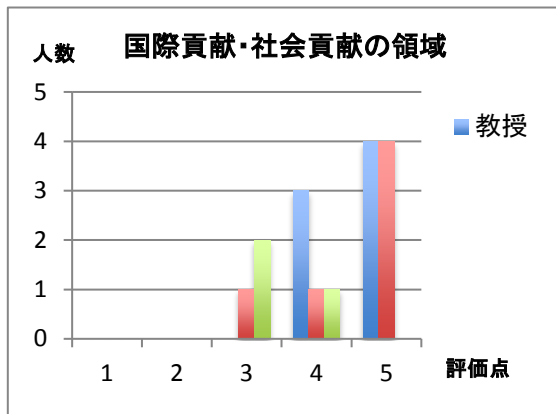
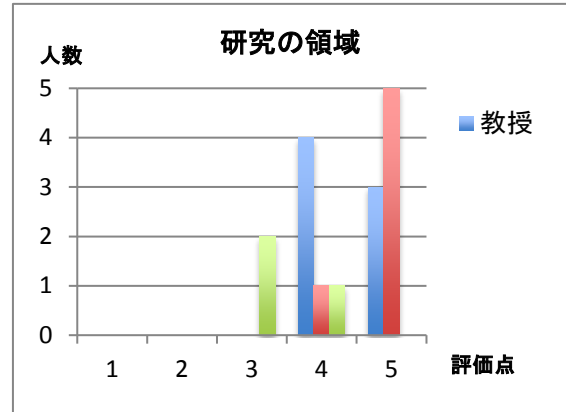
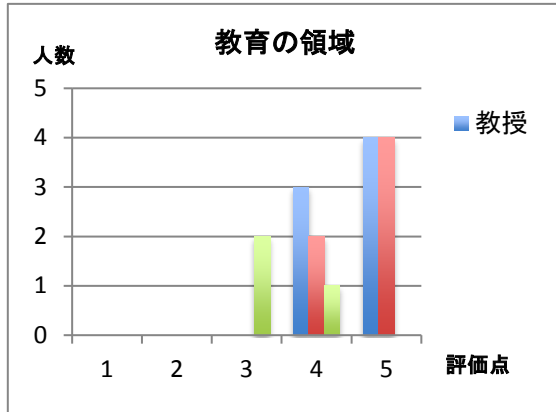
##### 【数理科学専攻】



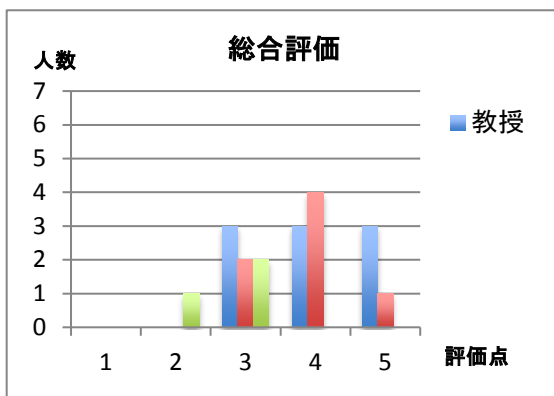
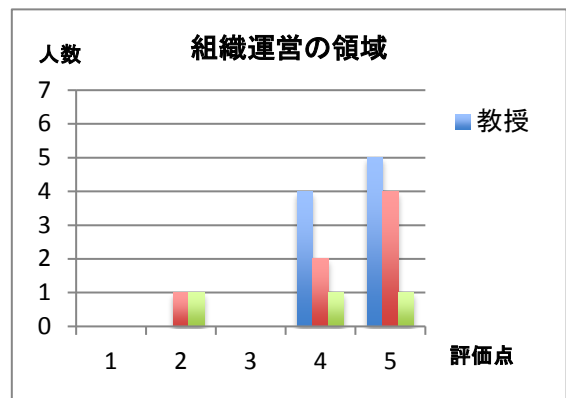
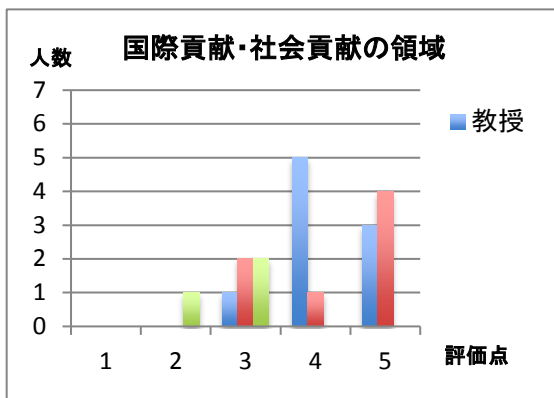
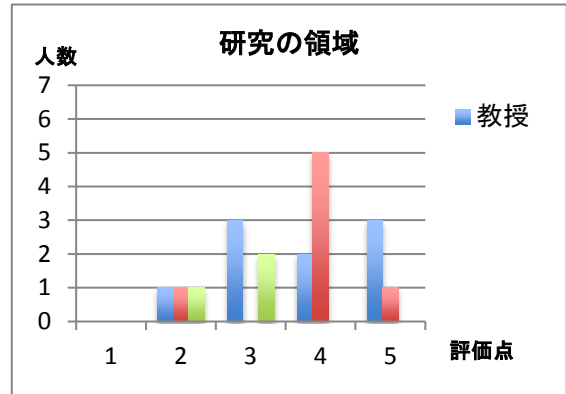
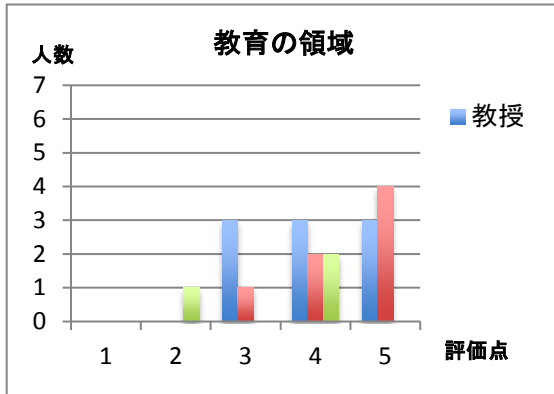
【物理科学専攻】



【知能情報システム学専攻】

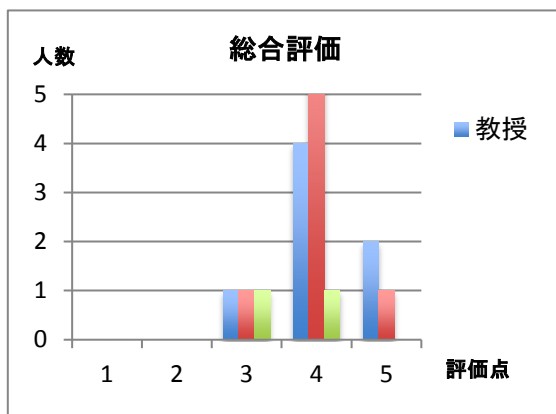
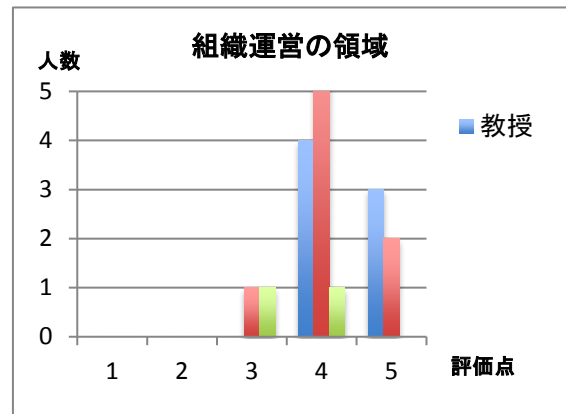
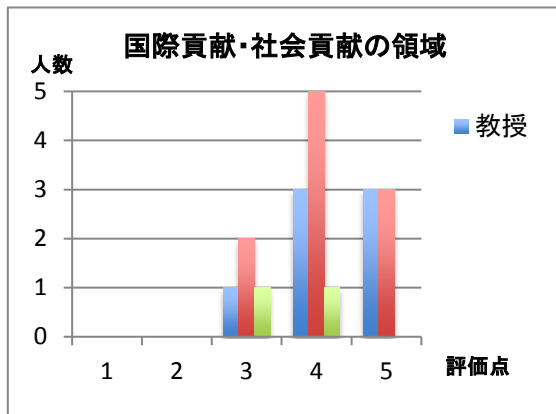
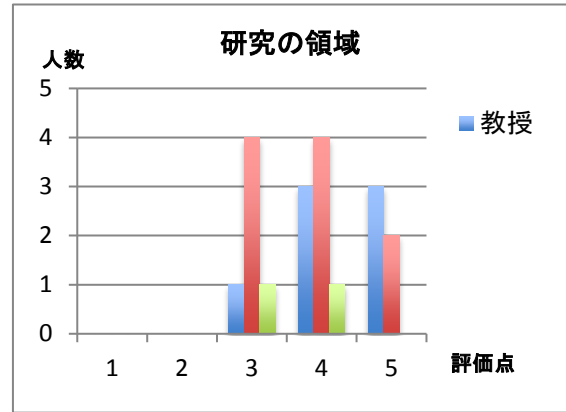
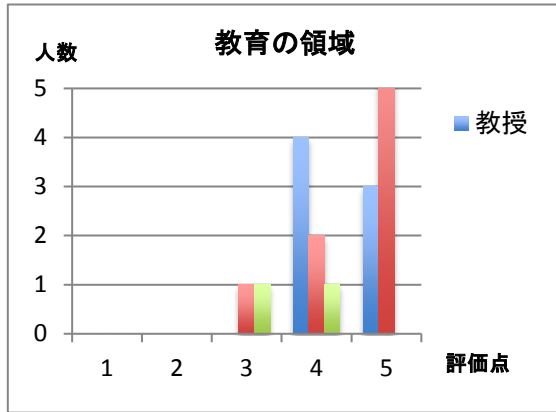


【循環物質化学専攻】

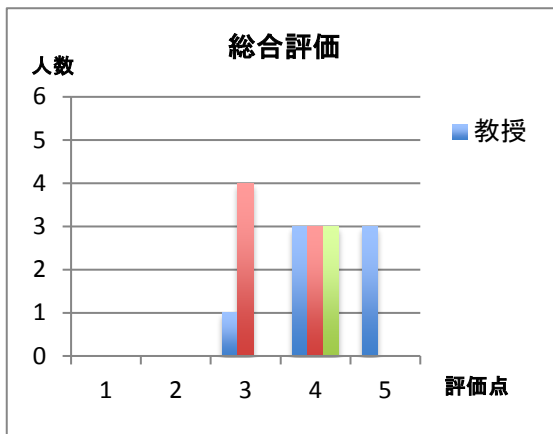
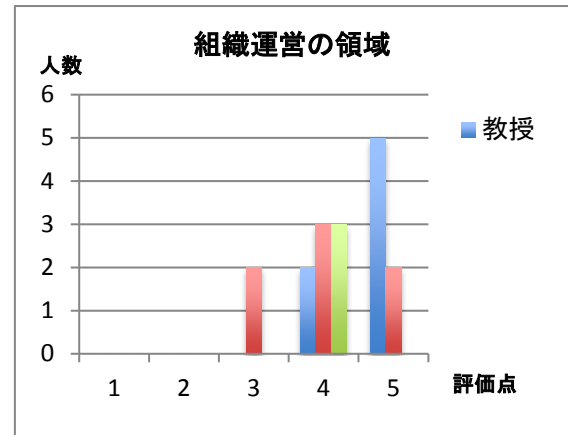
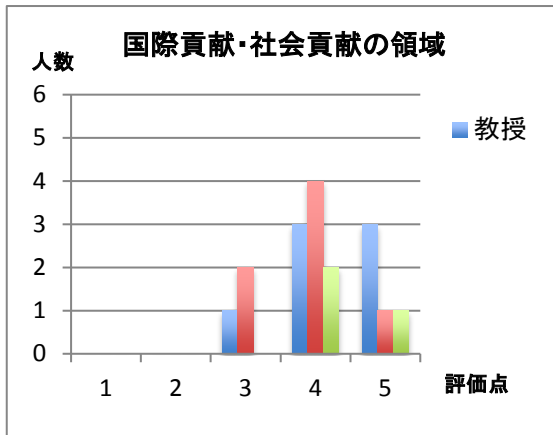
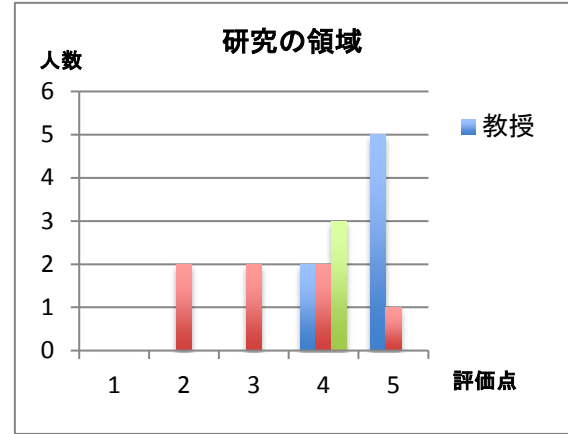
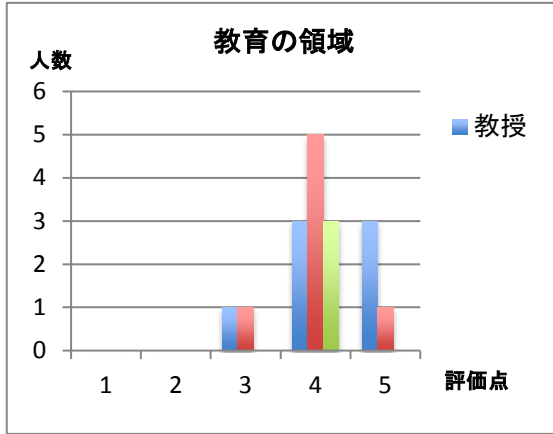




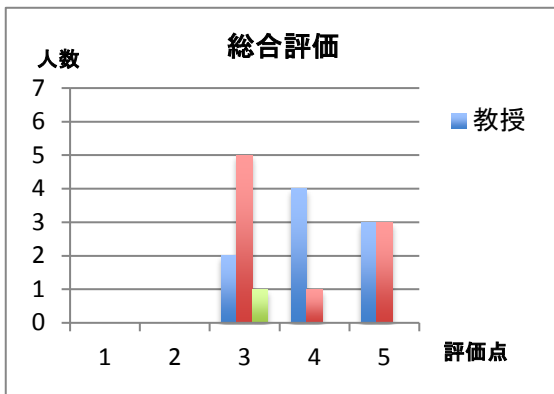
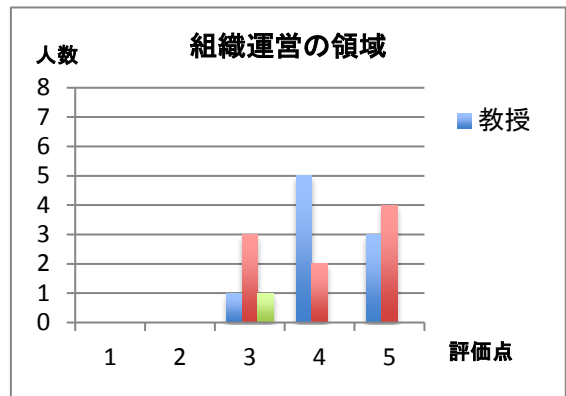
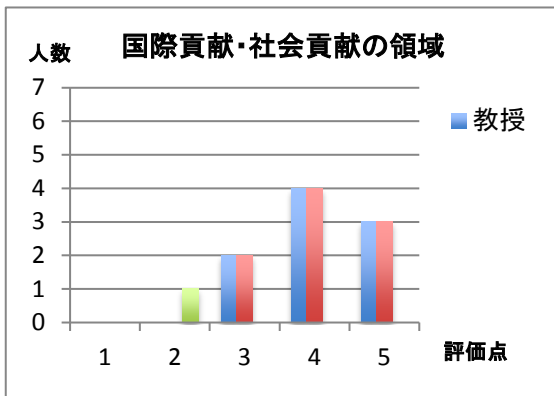
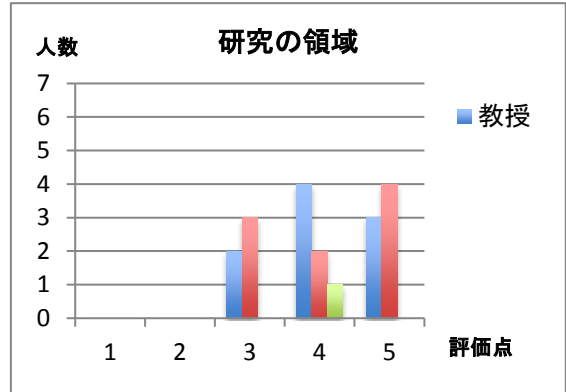
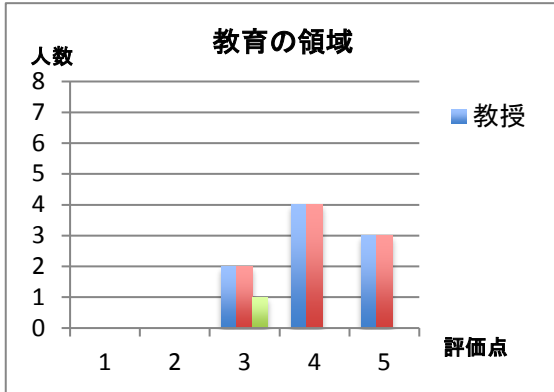
【機械システム工学専攻】



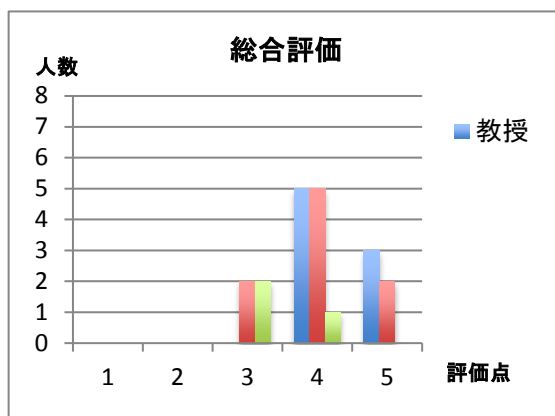
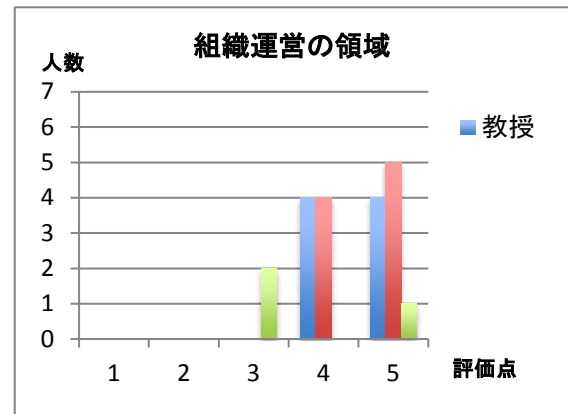
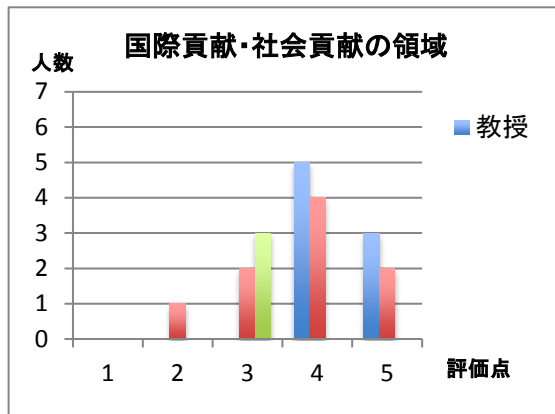
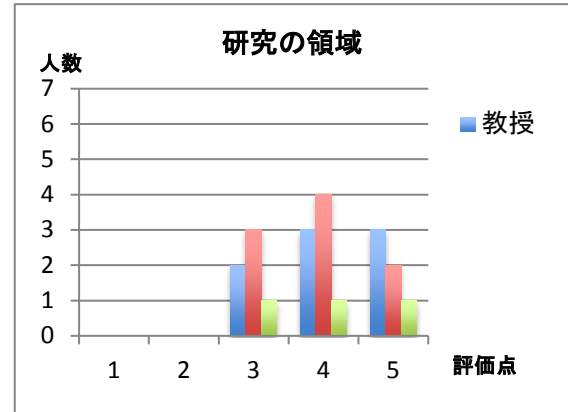
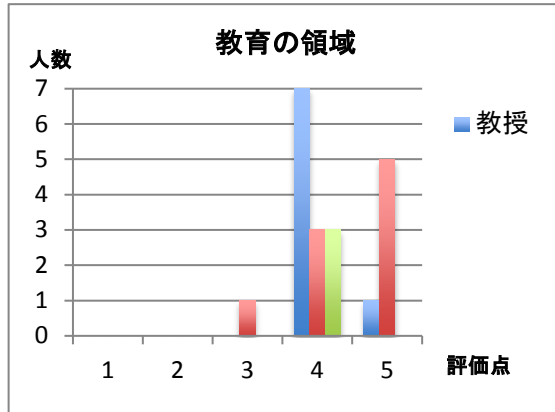
【電気電子工学専攻】



【都市工学専攻】



【先端融合工学専攻】



#### 4.3. 評価委員からのコメント

各専攻の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

##### 【数理学専攻】

1. 各教員が真摯に研究及び教育活動を行い、高い科研費採択率、入試問題作成や共通教育などにおいて、本学・本研究科に貢献している。自己評価は概ね妥当である。
2. 論文発表や国際研究集会の企画、参加および講演など、研究面において十分な貢献をしていると評価できる。
3. アクチュアリー関連の講義や卒業研究の実施のように、就職支援を意識した教育など、教育面における貢献も評価できる。

##### 【物理学専攻】

1. 教員は、それぞれが工夫して教育改善に取り組んでいる。また、自宅学習のための課題を用意するなど、学習時間を増やす努力が行われている。また、学科として留年率を低下させる試みとして、1年次の必修基礎科目について全教員（チューター）による補習と再試験を行い、学力が不足する学生に対する早期発見改善に努めている。
2. 研究活動については、概ね高いアクティビティを維持していると思われる。学生（院生）による学会発表なども定着してきており、研究の高いアクティビティが教育の活性化にもつながっている。
3. 社会貢献や国際交流の活動も継続されている。また専門性を活かしてSSH事業、サイエンスカフェなどのアウトリーチ活動にも貢献している。

##### 【知能情報システム学専攻】

1. 教育の領域においては、全教員が積極的に貢献しており、学科（専攻）教育改善委員会を中心に、継続的改善が図られている。また、近年の教授4名の定年退職に伴う教育負荷のアンバランスは、着実に解消されつつある。
2. 研究の領域では、教授、准教授とも非常に活発である一方、3名中2名の助教の研究に対する貢献は非常に低い。これは、次年度に向けて積極的に改善していかねばならない点である。
3. 国際貢献の領域では、留学生の受け入れや、国際パートナーシッププログラム実施など、積極的に活動に取り組んでいるが、この領域での貢献は一部の教員に大きな負荷がかかっている。
4. 社会貢献の領域では、教授、准教授とも学会活動のほか、佐賀県その他の審議会委員、各種協議会運営委員等、非常に積極的に貢献を行っている。
5. 組織貢献の領域では、全教員が、全学委員会委員、工学系研究科各委員会委員、他部局やセンターの運営委員、併任教員等として、組織運営に積極的に貢献している。

### 【循環物質化学専攻】

1. 学部教育においては JABEE 認定プログラムを継続し、質の高い教育を行っている。機能材料化学コースでは、JABEE 認定の継続審査における 6 年認定を受けた実績を維持しており、物質化学コースにおいても材料化学コース同等の教育体制を構築して差異のない充実した教育体制を整えている。また、各教員の授業改善に対する意欲も旺盛である。大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの学生を指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。博士課程の学生に対する研究を通じた教育の成果は学会での受賞や学生自身の執筆による論文発表などに反映されている。
2. 研究においては、多くの教員が主に査読付きの英文誌に論文発表をしており、発表論文の中には IF 値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、質の高い研究が行われている。また、多くの教員が学科、研究科、学部、大学間で連携して共同研究を行い、学長経費や研究科長経費、連携大学院共同研究費を獲得している。さらに、科研費をはじめ、県、民間企業と共同研究や受託研究を行い、外部資金を獲得して成果を上げており、専攻として優れた研究分野での貢献をしていると評価できる。研究費が大幅に削減されたが、各教員の日々の努力が窺い知れる。
3. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行う中で海外の研究者との研究交流を活発に行っている。また、研究科の支援による国際パートナーシッププログラムにも積極的に専攻として貢献している。地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や、佐賀県や九州地区の理科教育への協力、佐賀地域の理科・科学振興のための事業への参画など、多くの教員が地域貢献に尽力している。社会貢献としては、学会の主要な委員を務める、非営利団体と連携するなどして、学会活動等にも努めている。このように、国際・地域・社会貢献にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
4. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本専攻教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍しており、また重責を担う役職任務を多くの教員が遂行しており、貢献度は本学の中でも極めて高いと評価できる。また、当専攻はその学問的基盤により環境活動や薬品管理システム等の安全管理にも学内で先導的活動を行っている。

### 【機械システム工学専攻】

1. 機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定を受けている。この認定プログラムは継続的な点検・改善を必要とし、定期的に日本技術者認定機構による審査が行われる。直近では平成 28 年 10 月に実地審査に無事合格し 6 年間の継続が確定した。この認定を受けていることは、当学科で質の高い教育が保証・維持されていることを表し、教員の日々の創意工夫により導かれた結果といえる。また、個々の講義に関しては、定年退職や定員削減などで教員一人当たりの担当科目数が増える中、各教員が学科の目標に沿って学生を育成しようとする努力が見られ

- る。
2. 大学院教育に関しては、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の能力の向上が図られている。また、英語による教育にも力が入れている。大学院学生の国内外の学会での発表も多く行われている。
  3. 研究の面では、教員の国内外の学会などでの論文発表が活発に実行されている。研究費については、科学研究費補助金のみならず、企業との共同研究、奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れ、総務省やNEDOなどのプロジェクト研究についても積極的に取り組まれている。これらの実績から、機械システム工学専攻の研究に対し政府や民間企業等が強い期待を持っていることが分かる。
  4. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員として活動し、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行なわれている。
  5. 上記(1)～(4)と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

#### 【電気電子工学専攻】

1. 教育の領域においては、専攻・学科内の教育に関する委員会が活発に行われており、教員それぞれが創意工夫して教育改善に取り組んでいる。また、学会発表や発表論文において多数の学生が受賞している。
2. 研究活動においては、質の高い論文発表がなされ、共同研究も活発に行われている。また、若手教員による研究に関する受賞もなされている。
3. 国際交流においては、複数の国との共同研究がなされている。また、社会貢献として、学会役員、国際学会編集委員、論文編集委員、論文査読委員、地域での科学実験講師など幅広い活動が行われている。
4. 組織運営にあたっては、全学委員、研究科内委員、専攻・学科内委員ともに、着実に担当が遂行されている。
5. すべての領域において、良好な成果が出ており、教員それぞれが今後も継続的な向上に努めていただきたい。

#### 【都市工学専攻】

1. 教育について
  - 教授の教育負担で見ると、平成 27 年度に比較して学部の担当コマ数の平均が 1 コマ以上増えている。教員人事の影響が現れていると思われる。
  - 准教授（講師含む）の教育負担で見ると、平成 27 年度に比べて学部の担当科目数の平均はやや増加しているが、大学院においては減少している。
  - 学生の授業評価を踏まえ、学生に分かりやすくする様々な授業の工夫が実践されており、総合的に授業方法の改善が図られていると考えられる。

- 平成 18 年度に 2 コース制（都市環境基盤コースと建築・都市デザインコース）を導入したが、第 1 期の学科入学生が平成 23 年度に博士前期課程を修了し、学部から博士前期課程までのワンサイクルが既に経過している。平成 24 年度末よりコース制導入の評価を踏まえた教育システムの改善に着手し学科・専攻のミッション検討を行っている。
2. 研究について
- 教員個人間で論文数のばらつきが極めて大きい。
  - 研究分野の事情も背景にあると考えられるが、研究活動の落ち込みを極力少なくし、専攻全体の研究活動を一層高めるための自覚と努力が望まれる。これについても、学科・専攻の教育システム委員会でその改善方策を検討中である。
3. 地域・国際貢献について
- 多くの教員が行政などの各種委員会や審査会、講演会などを介して地域社会に貢献している。
  - 半数近くの教員が工学系研究科の国際教育パートナーシッププログラムへの参加、外国からの教員・研究員・大学院生の受け入れ、外国海外大学での講義、及び国際的共同研究の実施により、国際学術交流を行っている。

#### 【先端融合工学専攻】

1. 教育に関しては、評価点や達成率も高い。これは、教員各自の高い意欲の結果だけではなく、授業点検および授業点検報告の実施およびそれらに基づいた授業改善が機能していることを意味する。また、FD 講演会や TP ワークショップへの積極的参加から、さらなる教育改善に対する意欲と努力がうかがわれる。
2. 研究に関しては、各教員が多くの研究成果を出している他に、指導学生の国内学会、国際学会での発表も順調に増えている。助教においては、査読付き論文中、和文論文の割合が教授・准教授に比べてやや高い。今後、研究成果を積極的に英文論文として発表することが期待される。研究資金獲得については、科研費が中心であるが外部資金獲得への努力も見られる。科研費は一部基盤 B があるが基盤 C がほとんどであり、研究費確保の面からも大型外部資金の獲得へ向けた努力と体制構築が引き続き今後の課題である。
3. 社会貢献・国際交流に関しては、多くの学会や地域の協議会・審議会の役員等を務めている。評価点や達成率の平均値も高めであり、社会貢献や国際交流に対する理解と努力が感じられる。特に学会大会の主催や、学術交流協定を結んでいる海外の大学との活発な交流が目についた。
4. 組織運営については、全教員の積極的な関与が見られ、各教員の評価点や達成率も高い。
5. 個人評価は、各自達成目標を異にするため成果の評点を単純に比較することは不可能であるが、設定された目標のレベルのばらつきは大きくなく、教員はおおむね各



自の活動に適切なレベルの目標を設定し、自己評価を適切に行っていると判断する。

## 平成 29 年度工学系研究科評価委員会委員

委員長	渡 孝 則	(研究科長)
委 員	萩原 世也	(副研究科長・評議員) (～9月)
委 員	後藤 聡	(副研究科長・10月～評議員)
委 員	豊田 一彦	(副研究科長)
委 員	鯉川 雅之	(10月～副研究科長)
委 員	船久保 公一	(研究科長指名委員)
委 員	竹下 道範	(研究科長指名委員)
委 員	帯屋 洋之	(教務委員会委員長)
委 員	中川 泰宏	(数理科学専攻長)
委 員	杉山 晃	(物理科学専攻長)
委 員	花田 英輔	(知能情報システム学専攻長)
委 員	北村 二雄	(循環物質化学専攻長)
委 員	辻村 健	(機械システム工学専攻長)
委 員	大津 康德	(電気電子工学専攻長)
委 員	小島 昌一	(都市工学専攻長)
委 員	村松 和弘	(先端融合工学専攻長)
委 員	淵上 道晴	(工学系研究科事務長)